

楷

第七十六号

岡山大学
附属図書館報
OKAYAMA UNIVERSITY
LIBRARY BULLETIN

KAI
No.76
2023
FEBRUARY



<写真>

かつら

山中ニ生ス三四月細白花開實ナル
九月熟シテ赤シ

「備前国備中国之内領内産物絵図帳」（岡山大学附属図書館所蔵池田家文庫より）

—目 次—

- 鹿田分館の現状と求められる将来像（鹿田分館長 長塚仁）…………… p.2
- ディスカバリーサービス「OU OneSearch」のサービス開始について
（情報管理課）…………… p.6
- 岡山大学におけるオープンアクセス推進に係る論文掲載料（APC）支援について
（情報管理課）…………… p.8
- マスカット…………… p.11
池田家文庫絵図展報告、「池田家文庫」の一部古典籍をオンライン公開 ほか
- 会議・研修・編集委員から…………… p.16

鹿田分館の現状と求められる将来像

長塚 仁

私にとって図書館は、インターネットのない時代に一日中蔵書庫で文献探しに明け暮れていたイメージが強い場所です。当時は論文を探すことに時間がかかり、ようやく探し当てた論文が自分の研究には全く役に立たなかったり、どうしても必要と思われる論文がなかなか手に入らなかったりと苦労が多かったように思います。そのため、ようやく入手できた文献は、自分の研究にとって大きな位置をしめる財産でありました。また、学部生時代には学部内には自由になるスペースがなく、図書館に非常にお世話になりました。最近では、情報へのアクセスの方法に大きな変化があったこともあり、なかなか図書館に足を運ぶ機会がありませんでした。今回、分館長を拝命したことで久しぶりに鹿田分館を訪れて、大変明るくきれいに、かつ利用しやすくなっていることに驚いています。

さて、2019年12月に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が確認され、世界情勢は大きく変化しました。大学も大きな変革を求められることとなりましたが、図書館も例外ではありませんでした。ここでは、私自身の経験も踏まえ、鹿田分館の現状や将来像について述べたいと思います。

鹿田分館の利用者とニーズ

鹿田分館の利用者は、学部では医学部、歯学部、薬学部が中心です。また、鹿田地区には医歯薬学総合研究科と保健学研究科があり、さらに大学病院が大きな位置を占めていますので、医療系を中心とした多くの利用者がおられます。多様な学生と教職員が在籍するため、極めて広い領域の学術情報が求められることとなります。医療系の教育や研究に必要とされる学術情報量は飛躍的、爆発的に増加していますので、鹿田分館に求められる機能や重要性も増しています。入館者数については、2019年度は年間12万5千人を超えていましたが、2020年、2021年と4万4千人、4万7千人あまりに減少しました。この入館者の大きな減少はCOVID-19感染防止による利用制限の影響が大きいと推察されます。特に、学外者利用については医療系部局であり大学病院と同じ敷地に存在する鹿田分館では、厳しい入館制限を加えざるを得ませんでした。しかし、入館者の数をみても、COVID-19以前から利用者は減少傾向にありました。COVID-19感染防止による入館者の大幅な減少は一時的なものかもしれませんが、ポストコロナを見据えた鹿田分館の利用促進や役割については、新たな方策のもとにニーズを掘り起こしていく必要があります。

現在では閲覧室（サイレント）とセミナー室になっていますが、以前、鹿田分館の3階には多数のコンピュータが導入され、医療系の共用試験 CBT 等でも利用されていました。図書館のニーズと機能は時代によって変化していくものと思います。医療系教育カリキュラムは、従来の座学中心の講義ももちろん重視されていますが、それとともに課題解決能力を養うプログラムが多く取り入れられるようになりました。課題解決型プログラムでは、自ら学ぶ姿勢とともに正確で適切な情報を

入手する必要があります。医学に関連した学術に関する情報量は、加速度的に増加しています。そのため図書館には、利用者が正確で適切な情報を提供できる環境が求められています。印刷体としての教科書は、正確性において最も信頼性の高い情報源と思います。そのため、実際に教育を担う教職員と連携して本当に必要な図書を充実させることが必要です。さらに、現状では学生、研究者も実際に図書館で研究や教育資料を探すよりはインターネットを通じた情報収集が主体となっています。多忙な医療従事者や求められる教育内容が益々高度化し多岐にわたっている学生が必要な情報を得るためには、さまざまな検索技術も必要となっています。また、あふれるフェイクを除外し、正確で適切な情報にたどり着くための技術や倫理面の課題も益々複雑化しています。そのような観点から図書館の機能として、情報検索環境の整備や情報倫理を含む情報検索技術の習得機会の提供も必要とされています。鹿田分館では、以前より検索技術に関する講習会を開催しています。定期的な資料の探し方やデータベースの扱い方に関する講習会の他にも、利用者の希望に応じた個別の講習会を開催しています。個別の講習会は一人からでも受講が可能ですので、今後も是非積極的にご利用頂きたいと思います。医学に関する情報教育が、教職員や学生の能力向上に役立つことが鹿田分館に求められる大きな使命であり、図書館の機能も時代とともに変わっていくのだと思います。

新型コロナウイルスの影響とポストコロナに向けた鹿田分館

COVID-19 は図書館の利用のみでなく、社会情勢や教育方略にも大きな変革をもたらしました。鹿田分館でも学外者の利用停止や学生の利用停止、一部利用制限などさまざまな対応を余儀なくされました。感染状況に応じて、授業を除くラーニングcommons、セミナー室の利用休止、学外者の利用休止、2021年にも学部学生の特別利用休止などの感染防止対応をとらざるを得ませんでした。そのような入館者の減少した状況においても2021年の貸出図書数は2019年と比較して70%程度を維持していました。特に教職員による図書の貸出は、2021年の貸出図書数は2019年と比較して90%を超える数で推移しており、現在でも図書から得ている情報量が意外に多いことが伺われます。

大学における講義もオンライン授業が大幅に増加するなど大きな変化がありました。オンライン授業の増加に伴い課題作成の機会も増加し、課題作成のための情報の取得もインターネットを利用する機会が増えています。私の教員としての経験では、インターネットから得られた不確定な情報をそのままカットアンドペーストで貼り付ける学生もいたようです。情報リテラシーに関する教育については課題も多く、鹿田分館もその一翼を担っていますが今後もその重要性は増すばかりです。

図書館の機能である授業時間以外の学びが可能な環境の提供については、鹿田分館では以前より、鹿田地区および薬学部学生の特別利用として24時間の入館を可能としてきました。COVID-19対策として学部学生については、臨床実習学生のみ許可を与えるなどの制限が加わりました。学生の遅い時間の利用目的は、主に試験勉強や資料の閲覧と考えられ、特に鹿田分館は国家試験や共用試験などのために勉強する場として利用されています。さらに、病院の教職員など夜間以外に鹿田分館を利用することが難しい場合もあるかと思えます。特別利用については今後の利用についての要望も出されています。ポストコロナに向けた鹿田分館の特別利用については、夜間であり図書館スタッフも不在なことから、防犯面を含めいくつかの課題があることは事実です。各部局に勉強する場が提供されれば、特別利用は必要なくなるかもしれませんし、逆に夜間のスタッフを配置して機能の拡充を図る必要が出てくるのかもしれません。

ポストコロナに向けた鹿田分館の機能として、国際的な側面も求められています。岡山大学には1000人弱の留学生が在籍しています。COVID-19の影響があり国際化の推進には厳しい時期が続く

ましたが、ポストコロナの時期では留学生数が大きく増える可能性があります。国際化の推進は本学にとって必須の事項であり、ますます留学生の比率が増加していくことが考えられます。鹿田分館としても留学生や外国人研究員にも利用しやすい環境整備が、さらに求められることになると思われまます。今後も鹿田分館の機能として本当に必要な事項は何なのかを常に考えながら、利用者のニーズを踏まえた利用方法の提供を進めることが大切と考えています。

電子コンテンツの現状、課題、将来像

インターネットの普及やデジタルデバイスの進化により、情報へのアクセスの手段が大きく変わっています。それに伴い、医学にかかる教科書、学術雑誌などの学術情報も電子化が急速に進みました。電子コンテンツには、電子ジャーナル、データベース、電子ブックなどがあります。電子コンテンツにはいつでも、どこからでもアクセス可能、最新の情報が入手可能、管理が容易、検索性が非常に高いなどの利用者側のメリットがあります。電子コンテンツは、主に利用する権利について契約することから、利用者はその契約について十分に理解し、遵守する必要が生じます。

岡山大学では図書館の予算の多くを電子ジャーナルとデータベースに使用しています。その金額は年々増加しており、新規の契約を増やしたりするのはもちろん、既存の契約を維持するのも困難な状況に置かれています。これは電子ジャーナル論文数の増加や開発費なども原因に挙げられますが、やはり電子ジャーナル大手出版社の寡占と価格競争が生じにくい契約の特殊性に加え、外国為替レートが円安に振れたことも大きな影響となっています。図書館の予算には限りがあり、購読予算の増額を続けることは現実的ではありません。電子ジャーナルの金額上昇は、長年にわたり形成されてきた世界的な問題となっており、その解決は簡単ではありません。電子ジャーナル契約の変更により、アクセスが出来なくなるジャーナルの増加や、過去に発刊された論文が閲覧できなくなるなどの問題も発生しています。もう一つの電子ジャーナルにおける課題として、論文をオープンアクセスとするための論文処理費用 (Article Processing Charge : APC) があります。論文のオープンアクセス義務化は、世界的な潮流であり、我が国においても今後さらに論文発表に必須のものとなっていくと思われまます。オープンアクセスには大きく分けて3つの種類があります①グリーンオープンアクセス: 著者自らがインターネット上に研究成果を公開する論文②ゴールドオープンアクセス: 著者が APC を出版社に支払い、出版社が公開する論文③ブロンズオープンアクセス: 出版社が無料で公開しているが、オープンアクセスのライセンスが明示されていない論文。特に問題となるのは、ゴールドオープンアクセスです。APC の支出は研究者個人に委ねられてきました。APC は研究者個人の研究費から支出されるため、価格の上昇は研究費にしめる論文投稿費用の増大に直結し、研究費が少なければ論文投稿も出来ないという悪循環に繋がる可能性もあります。また、APC による収益を目当てとした粗悪学術誌 (いわゆるハゲタカジャーナル) が出現し、粗悪な出版社に研究費が流出していることも問題視されています。私たちひとりひとりがこの様な状況を理解し、注意を払うことが重要ですが、個々の研究者では対応に限界があります。岡山大学ではこの様な状況に対応するため、2023 年 1 月より電子ジャーナルの転換契約を締結し、研究者が責任著者として論文をオープンアクセスとして出版する場合の論文掲載料支援を開始しています。出版数の制限や若干の負担はありますが、研究者にとって非常に有意義な支援の形ですので、積極的に活用頂きたいと思われまます。電子コンテンツは契約形態がその利用や有用性、費用対効果に大きく関わることから、今後も出版社等々との交渉により、より優位な契約を締結していく仕組みが必要になるのだと思われまます。

もう一つの電子コンテンツである電子ブックは、COVID-19 の拡大によりリモートアクセスの活用が進み、タイトルや利用数も増加しています。私の専門である病理学では腫瘍の診断において、WHO が出版している腫瘍分類が基盤となるのですが、最新版ではオンラインの電子ブックがまず出版され、紙媒体はかなり遅れて出版されるという状況になっています。教育においても積極的に活用されている事例も増加しています。例として、3D 人体構造学画像データベースである Visible Body はヒト全身の解剖学アトラスのオンライン教材として、医療系学生の間で広く利用されており、年間 7000 回を超えるアクセスを得ています。その多くは PC ではなく、スマートフォンやタブレットなどのアプリから利用されており、より簡便な利用しやすいコンテンツが今後も求められていくのだと思います。

以上、鹿田分館の現状と求められる将来像について述べさせていただきました。COVID-19 の影響もあり、求められるニーズは大きく変わった部分もありましたが、今後も変わらない部分もあるのだと思います。鹿田分館も常に時代に対応した機能を考えながら、運用していくことが重要と思います。

(ながつか・ひとし 鹿田分館長)

ディスカバリーサービス「OU OneSearch」 のサービス開始について

情報管理課

ディスカバリーサービスとはその名のとおり、学術情報の「発見」を促すために様々な形で情報を提供するサービスで、一般的には聞きなれない用語かもしれませんが、それほど新しいサービスではなく、国内の大学などに導入されてすでに十年以上経過しています。

岡山大学附属図書館でも導入について何度か検討されてきましたが、この度、令和5年度の本格サービス開始を目標として令和5年1月から「ディスカバリーサービス OU OneSearch（オーユワンサーチ）」（以下「OU OneSearch」とする）のプレサービスを開始しました。

OU OneSearch の最大の特徴は、本学の蔵書や国内外の様々なオープンアクセス情報、さらに本学の契約電子ジャーナル・データベースを一度に同じインターフェースにて検索できることです。

横断検索等と異なり、検索スピードを上げるため事前に検索対象のデータベースからタイトル単位や論文単位のメタデータやフルテキストを収集し、インデックスを構築し、それを検索する手法をとっています。

岡山大学附属図書館は約198万件（令和4年3月末現在）の蔵書、Web of Science を初めとした多数のデータベースを契約しています。また、昨今、学内外のオープンアクセス論文が急激に増加しています（本学の学術成果リポジトリと貴重資料データベースについては令和5年度中に搭載予定）。これらは今までそれぞれ検索しなくてはなりませんでした。また、通常の Google 等の検索ではヒットしない深層 WEB と呼ばれる本学契約データベースも対象としていて、これらを一度に同じインターフェースで検索できるようにしたのが OU OneSearch です（ヒットした情報から本文までたどり着けるものも多数あります）。

ただし、諸般の事情から全ての契約データベースについて検索対象とはなっていません。

また、特定研究テーマが決まっている場合はそれに適したデータベースを利用した方が、最新で多数の情報を入手できる場合もあります。

OU OneSearch を利用すれば、全てが解決する訳ではありませんが、レポートのための資料・文献収集や興味をもった研究テーマの先行文献探索の効率が飛躍的に向上しますので、学修・研究のきっかけにぜひご利用ください。



図書館ホームページトップ画面の「OU OneSearch」



検索結果画面

岡山大学における オープンアクセス推進に係る 論文掲載料（APC）支援について

情報管理課

本学では、2023年1月から電子ジャーナル出版社5社と「転換契約*1」を締結し、本学構成員が学術雑誌にて論文をオープンアクセス（OA*2）出版する場合の論文掲載料（APC*3）支援を開始しました。これにより、対象論文は、出版社へ直接APCを支払うことなく、一律一報5万円の著者負担金を大学へ支払うことでOA出版が可能となります。

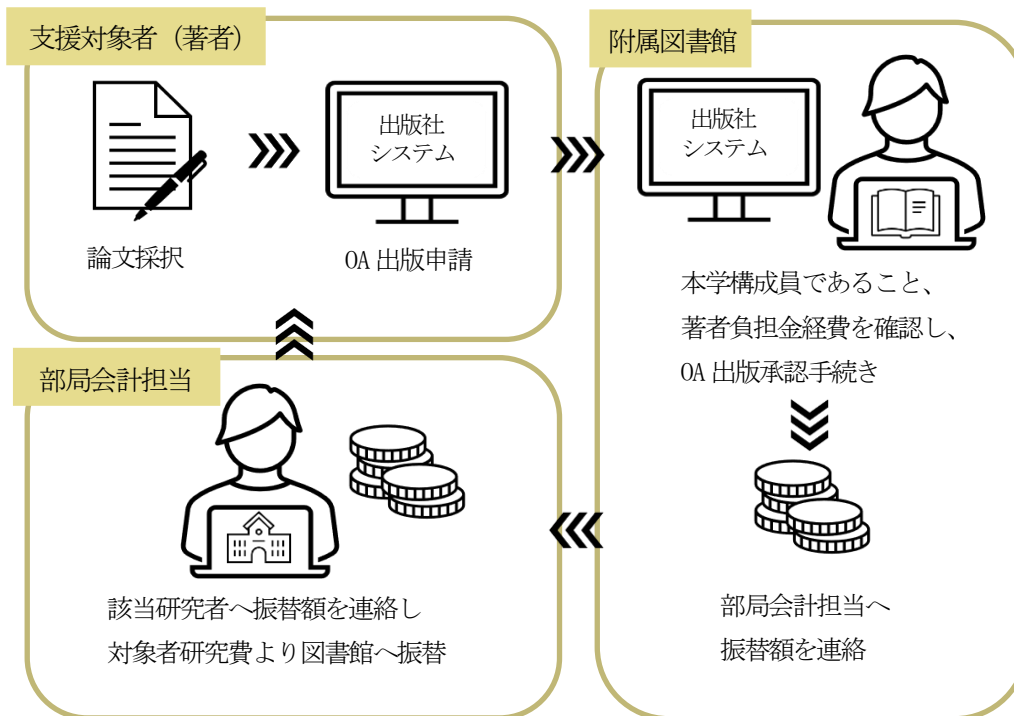
本学における同支援の詳細

対象者	論文の責任著者（Corresponding Author）のうち、原則、本学に所属しており、「著者負担金」を公費で対応可能な教職員、学生 ※ 教職員には、公費を利用可能な名誉教授等を含む
対象ジャーナル	以下の出版社が指定するハイブリッドOAジャーナル*4 （フルOAジャーナルは一部を除き対象外） <ul style="list-style-type: none">• The Company of Biologists• Oxford University Press• Rockefeller University Press• Royal Society of Chemistry• Springer Nature（※Nature関連誌は対象外） ※ 出版社ごとに対象期間、対象ジャーナル、対象論文タイプ、本学全体での年間OA出版可能数などの条件があります。
著者負担金	<u>一律一報5万円</u> 本学が転換契約で対象論文をOA出版するための費用を包括的に支出し、支援の対象者に負担金を請求する仕組みです。 四半期毎（3か月毎）に附属図書館から各部局会計担当に通知し、対象者に内部取引で請求します。 ※ 支払い経費は公費のみ、第4四半期は原則、運営費交付金のみ

- 留意事項
- ※ 対象者は、論文受理後の承認手続きの時点で、本学に所属している必要があります。
 - ※ OA 出版プロセスは出版社によって異なります。事前に附属図書館および出版社サイトをご確認ください。所定の手続きを経ない場合、同支援の対象外となる恐れがあります。

- 附属図書館
ホームページ
- ・各出版社の詳細情報（同支援以外の APC 割引情報も含む）
<https://www.lib.okayama-u.ac.jp/support/apc.html>
 - ・岡山大学オープンアクセス推進に係る APC 支援の詳細（学内限定）
https://www.lib.okayama-u.ac.jp/campusonly/cms/transformative_agreement.html

手続きの流れ



- ※ 例外として Royal Society of Chemistry と Rockefeller University Press は、著者による出版社システムでの OA 出版申請手続きが行われた時点で OA 出版が確定します。附属図書館からは、確定後に著者負担金の経費確認を行います。

転換契約をめぐる背景やメリット

従来の電子ジャーナル購読料高騰に加え、オープンアクセスが急速に普及する中で APC も上昇しており、電子ジャーナルをめぐる費用問題は、非常に複雑なものとなっています。特にハイブリッド OA ジャーナルでは、大学による購読料の支出、著者による APC の支出という、出版社による二重取り状態が長らく危惧されていました。

この問題に対応する方策として、学術雑誌のOA転換を目的とするイニシアチブOA2020や、研究助成機関から助成を得た研究成果を論文公表後直ちにオープン化するよう義務付けるPlan Sといった動きが活発化しており、電子ジャーナル契約モデルの一つである「転換契約」が広がりを見せています。

転換契約は、従来の購読料のみの契約とは異なり、大学が電子ジャーナル購読料と一定額のOA出版にかかる費用を包括的に支出し、また、購読料をOA出版費用へ転換していくことで、論文を広くオープンにすることを目的とした契約です。国内でも、令和3年2月に科学技術・学術審議会情報委員会ジャーナル問題検討部会から出された「我が国の学術情報流通における課題への対応について（審議まとめ）」^{*5}において、転換契約への対応を含むOA化推進は早急に取り組む課題とされています。

転換契約によって、学内研究者は、APC支出の抑制や、OA出版による研究成果の周知、論文引用数の増加などのメリットを得ることが可能になります。また、研究成果を社会に還元し、学術研究の進展に寄与できます。大学は、追加費用を上回るOA出版を実現できることで、大学全体の費用を抑制できるほか、OA出版論文増加により大学のプレゼンスを向上させることが可能です。すでにOA化は世界的な潮流となりつつあり、国内でも、電子ジャーナル購読料とAPCの最適化をはかりつつ、OA化を加速することが、最重要課題とされています。転換契約を進めることで、その一端を担うことが可能になります。

なお、各研究者の個人経費で支出していたAPCを大学で包括的に契約するには、OA出版費用の財源確保が必要不可欠です。APC支援を継続して行うため、本学では、対象者に一律一報5万円の著者負担金を負担いただく運用を導入しました。今後も、持続可能な体制となるよう見直しを図ってまいりますので、研究者の皆様にはご理解を賜りますようお願いいたします。

*1 転換契約

従来の電子ジャーナル契約は学術雑誌の購読料のみの契約でしたが、転換契約では雑誌に掲載する論文の掲載料も含んでいます。「購読料」を「掲載料」に「転換」し、論文を広くオープンにすることを目的とした契約です。

*2 オープンアクセス (OA)

インターネット上で学術情報を誰もが障壁なく利用できるようにすること。通常の論文は掲載している雑誌を購読しなければ利用できません。オープンアクセスとして出版する場合は、多くの場合、著者がAPCを出版社に支払う必要があります。

*3 論文掲載料 (Article Processing Charge, APC)

論文をオープンアクセスにするために出版社へ支払う費用。

*4 ハイブリッドOAジャーナル・フルOAジャーナル

ハイブリッドOAジャーナルは、著者が自分の論文を掲載するにあたって、OAで出版するかどうかを選択する方式のジャーナルです。フルOAジャーナルは、すべての論文をOAで出版する方式のジャーナルです。いずれも、OAで出版する場合は、多くの場合APCが必要です。

*5 科学技術・学術審議会・情報委員会・ジャーナル問題検討部会、「我が国の学術情報流通における課題への対応について（審議まとめ）」。文部科学省。2021-02-12。

https://www.mext.go.jp/content/20210212-mxt_jyohoka01-000012731_1.pdf (参照 2023-01-27)。

マスカット

池田家文庫絵図展報告

2022年10月22日（土）～11月20日（日）に岡山シティミュージアム 5F 展示室を会場に池田家文庫絵図展「岡山城と人々の暮らし」を開催しました。

初日には開会式および企画・監修の本学東野将伸社会文化科学学域講師によるオープニングトークを実施しました。また、11月12日（土）には筑波大学人文社会系山澤学准教授による記念講演「近世日光山と諸国の東照宮—建築とまつり—」を開催し、40名の方々にご参加いただきました。岡山にある東照宮についても触れられており、参加者のみなさまは興味深く聴講されておりました。



岡山にある東照宮についても触れられており、参加者のみなさまは興味深く聴講されておりました。

例年より約2週間開催期間が延長された会期中の来場者は、延べ1,782人となりました。

「池田家文庫」の一部古典籍をオンライン公開

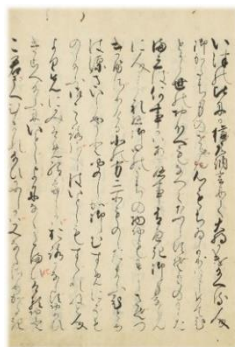
国文学研究資料館と岡山大学附属図書館は、日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画におけるデータベース構築に関する覚書を交わし、新たに高精細デジタル画像で撮影された池田家文庫和書62点（「とりかへはや（とりかえばや）」、「装束絵図本（しょうぞくえずほん）」など）を2022年11月28日に新日本古典籍総合データベースで公開しました。

タグ付けなどができるデータベースのため、これまで以上に資料を探しやすかつ国内外の研究などに活用いただけるようになりました。

以下からご利用いただけますので、ぜひご活用ください。

新日本古典籍総合データベース：<https://kotenseki.nijl.ac.jp>

岡山大学附属図書館所蔵の公開作品リスト：<https://kotenseki.nijl.ac.jp/page/list-okau.html>



とりかへはや 貴-35



装束絵図本 貴-2-18

知好楽セミナー報告

「知好楽セミナー」とは、グローバル化時代を生き抜くための「知」と「心」を育む交流をコンセプトとした中央図書館の独自企画です。各界から多彩な講師をお招きし、ご好評をいただいています。

・第29回「物語のある美術館—大原美術館が生まれるまで—」



日時：2022年12月16日（金）14:00～15:30

講師：吉川あゆみ（公益財団法人大原美術館・学芸課長）

場所：中央図書館 本館 1F OG Wellness SALON（ラーニングcommons）、
Zoomによるオンライン配信

参加者：会場15名、オンライン配信35名

大原美術館学芸課長の吉川あゆみ氏にご講演をいただきました。

今回の講演では、西洋美術を紹介する日本最初の美術館「大原美術館」の誕生にかかわった大原孫三郎、洋画家の児島虎次郎の思いや奮闘の様子についてお話しいただきました。また、おおよそ100年前の絵画収集の様子を、児島虎次郎のツイッターで伝える取り組みもご紹介いただきました。参加者からは、「美術館の設立背景を人物を通して知ることができ、美術館がより身近に感じられるようになった」、「実際に行ったことのある大原美術館の歴史を知るよい機会でした」、「是非また行きたくなりました」といった声をいただきました。

中央図書館ミニ展示報告

中央図書館本館1Fロビーの展示スペースで、当館資料を紹介するミニ展示を実施しています。タイムリーなものを中心に様々なテーマで展示しておりますので、ぜひご覧になってください。2022年10月～2023年1月は以下のテーマで展示しました。

10月11日 ノーベル賞特集

12月 美術館特集

※知好楽セミナー「物語のある美術館 大原美術館が生まれるまで」と連携したミニ展示

1月 LGBTQ展示



中央図書館館内展示報告

・企画展「岡山大学所蔵池田家文庫」

中央図書館本館 2F ムラタアカデミアにて、企画展「岡山大学所蔵池田家文庫」を開催しました。

岡山大学附属図書館の所蔵している池田家文庫から、絵図や信長記、備前国備中国之内領内産物帳（いずれも複製）、小野文庫から平家物語（パネル）も展示しました。

展示期間：2022年10月5日（水）～12月2日（金）

展示場所：本館 2F ムラタアカデミア



・岡山城リニューアル連携展示「絵図に見る岡山城」

展示期間：2022年10月27日（木）～12月2日（金）

展示場所：本館 1F ロビー



・日本赤十字社との共同企画「献血についてもっと知ろう！」

展示期間：2022年12月13日（火）～12月27日（火）

展示場所：本館 1F ロビー



・知好楽セミナー関連展示

「物語のある美術館—大原美術館が生まれるまで—」

展示期間：2022年12月13日（火）～

展示場所：本館 1F OGWellnessSalon



・学生相談室企画

「さまざまなセクシュアルマイノリティについて、知る。考える。10th」

展示期間：2023年1月11日（水）～

展示場所：本館 1F ロビー



ブックハンティング実施報告

ブックハンティングは学生が図書館の蔵書に相応しいと思う本や、多くの学生の利用が期待できる本を選ぶイベントです。

中央図書館では、2022年11月16日(水)から11月30日(水)に、岡山大学生協ブックストア(津島キャンパス)で開催しました。

期間中に、学生9名の方に103冊の本を選んでいただきました。

オリエンテーション・データベース講習会実施報告

○中央図書館

中央図書館では2022年10月～12月にオリエンテーション等を開催し、延べ38名の方にご参加いただきました。

2022年12月にはZoomを使用してオンラインデータベース講習会を開催しました。リアルタイムでは延べ36名の方にご参加いただきました。開催後には岡山大学 Stream を介して記録動画を公開し、2023年1月末までにオンデマンド配信で延べ31名の方にご覧いただきました。

オリエンテーション、ラリー

実施日	対象	参加人数
11月8日、12月8日	客員研究員	6
10月12日、11月8日	新入生等	32

講習会

実施日	データベース	参加人数	視聴者数*
12月13日	JapanKnowledge Lib	7	13
12月14日	eol	13	9
1月20日	OU OneSearch	16	9

*2023年1月末までのオンデマンド配信の視聴者数

○鹿田分館

鹿田分館では2022年11月に講習会を開催し、1名の方にご参加いただきました。

講習会

実施日	講習会名	参加人数
11月7日	医中誌、PubMed	1

○植物研分館

植物研分館では2022年10月にオリエンテーションを開催し、5名の方にご参加いただきました。

オリエンテーション

実施日	対象	参加人数
10月3日	環境生命科学研究科新入生	5

教員からの寄贈図書リスト

次の方から著書をご寄贈いただきました。ありがとうございました。

<中央図書館>

今津勝紀 [文明動態学研究所]

日本古代の環境と社会——塙書房, 2022.12 (210.3/I46)

隈 研吾 [特別招聘教授]

全仕事——大和書房, 2022.6 (523.1/Ku 31)

他 50 冊

岡山大学出版会からの寄贈図書リスト

岡山大学創立 70 周年記念地理学論文集編集委員会

地域と生活：岡山大学創立 70 周年記念地理学論文集——岡山大学出版会, 2022.4

(290.4/C 43)

会議

◆学外

- | | | | |
|------------|-------------------------------------------|------------|-------------------------------------------------|
| 2022.11.8 | 岡山県大学図書館協議会令和4年度臨時総会
(メール会議) | 2022.11.25 | 令和4年度中国四国地区国立大学図書館所管
部課長会議 (ハイブリッド会議) |
| 2022.11.11 | 日本医学図書館協会中国四国地区総会 | 2022.11.25 | 令和4年度中国四国地区国立大学図書系・学
術情報系人事担当課長会議 (ハイブリッド会議) |
| 2022.11.18 | 令和4年度国立大学図書館協会中国四国地区
協会実務者会議 (オンライン会議) | 2022.12.2 | 国立大学図書館協会地区協会助成事業成果共
有会 (ハイブリッド会議) |

◆学内

- | | | | |
|--------------------|----------------------------------------------------------------------|----------------------|---------------------------------|
| 2022.9.1
~9.5 | 令和4年度第4回岡山大学出版会編集委員会
(メール会議) | 2022.12.13
~12.19 | 令和4年度第6回岡山大学出版会編集委員会
(メール会議) |
| 2022.9.26
~9.30 | 令和4年度第5回岡山大学出版会編集委員会
(メール会議) | 2023.2.8 | 令和4年度第2回附属図書館運営委員会
(Web会議) |
| 2022.9.27 | 令和4年度第1回附属図書館電子ジャーナル
等経費検討委員会・電子ジャーナル等選定
ワーキンググループ合同会議 (Web会議) | | |

研修

- | | |
|-----------------------------------------------|---------------------------------------------------|
| ・第63回中国四国地区大学図書館研究集会 (当番館)
(10.28 オンライン研修) | ・令和4年度大学図書館職員短期研修
参加者 石丸 綾華 (10.18~21 オンライン研修) |
|-----------------------------------------------|---------------------------------------------------|

編集委員から

今号で紹介しました通り、さまざまな資料を一度に検索できる「OU OneSearch」のプレサービス期間が1月から始まりました。ぜひご利用ください。また、図書館ホームページの「学習・研究支援」の中には、図書館の使い方や、学術データベースの使い方、レポート・論文ガイドを掲載している「図書館活用ガイド」のページもあります。岡山大学の学生・教職員の皆様、ぜひご覧ください。(C.N.)

岡山大学附属図書館報「楳」 No. 76 2023年2月28日
発行人 奥村小百合 編集 広報ワーキング
岡山大学附属図書館発行 〒700-8530 岡山市北区津島中三丁目1-1
ホームページ URL <https://www.lib.okayama-u.ac.jp>

